

よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

EKIN

貳号

2006. 6

絵金百話

シリーズ

第一話〈伊達競阿国戯場〜累〉

・ 動の祭りと静の祭り
・ 動く、絵金の世界

えきなり
リニューアル?
リニューアル?

絵金蔵

えきんぐら

INFORMATION

夜間開館のお知らせ

「須留田八幡宮宵宮」と「絵金祭り」に
合わせまして、7/14,15,16の三日間、
18時～20時の夜間特別開館を行います。
(最終日のみ21時まで開館)
なお、展示替えのため、17時一時閉館
をいたします。

スケジュール

7/14 須留田八幡宮宵宮
7/15,16 絵金祭り
7月中 まち歩きカルタ始動
8/2 《伝の会》
長唄三味線ライブ

※ 公式サイトも開設しております。
合わせてご覧ください。

絵金蔵

えきんぐら

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2006年6月20日
〒781-5310
高知県香南市赤岡町538
Tel.Fax 0887-57-7117
ekingura@mxi.netwave.or.jp
<http://wwwi.netwave.or.jp/~ekingura>

今宵、何を見よう。



絵金の横幟、登場。

2006.07.14 [金]～16 [日]

絵金蔵 [蔵の穴] にて
18時からの限定公開
問・絵金蔵 0887-57-7117

長唄三味線ユニット

伝の会

三味線ライブ

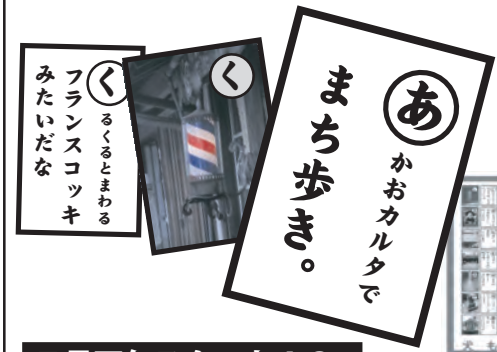
8/2 [水] 絵金蔵

19時開演 [18時半開場]
前売 2800円 当日 3000円
主催・和の音の会
問・090-6880-9765(中山)
チケット取り扱い・絵金蔵



歌舞伎生まれの音楽
― 長唄 ―
二人の三味線方が
伝統音楽の世界から
身を持ち出して繰り広げる
トークセッション。

次号お知らせ



7月下旬スタート!?

乞うご期待!



ウワサの「あかおカルタ」
定価 500円 絵金蔵にて販売中!

絵金百話

赤に注目。

絵具の仕掛け

目が光る!?



だてくゑおくにかぶき
伊達競阿国戯場

累 かさね

背景を見よ。

鎌が物語る累の運命…

蔵長の見所解説板

鎌が物語る累の運命

与右衛門の足元に転がる草刈鎌。次の場面、累はこの鎌により殺されてしまうのである。

効果的な赤

歌方姫の着物、累の襦袢、金五郎の帯…全体にさりげなく配られる「赤」は、絵全体を引き立てる。

絵具の仕掛け

髪の毛の線、累の目玉…貝殻を溶いた絵具の線は蠟燭の揺れる灯に怪しく光る。蠟燭と密な仕掛け。

背景を見よ

背景を見れば、姉妹の因縁解脱の旅に出る兄の姿が。一枚の絵に展開を見せる絵金の奇策。

見事な構図と原色の配置

なんととってもその構図の美しさと配色のうまさ。「累」が代表作と言われるゆえである。

須留田八幡宮の宵宮

毎年7月の14日、15日に開催される。須留田八幡宮の氏子たちが軒を連ねる本町商店街にて十七点の芝居絵が展示される。19時より21時頃まで。辺りが暗くなる20時以降が見頃。
※ 今年は14日のみの開催。

絵金祭り

毎年7月の第三土日に開催される。須留田八幡宮の宵宮を倣って、昭和52年に商店街の発展を願って始められた。この日は、本町商店街に、氏神様の違う横町商店街の屏風も加わり、赤岡にある二十三点すべての屏風が出そう。
※ 今年の第三土日は15日と16日。18時より屏風を展示。21時頃まで。



★ 屏風の展示される通りは車両通行止めとなります。

問・絵金祭り実行委員会（香南市商工会内）
887-54-3014

動の祭りと静の祭り

暑い盛りりの七月半ば、幕末土佐の歌舞伎の世界が、絵師金蔵こと「絵金」の極彩色で蘇る。ご存知、赤岡夏の風物詩「絵金祭り」。絵金の描いた芝居絵屏風が暗闇の中一本の蠟燭とともに商家の軒先に並ぶ。その原始的な祭りの姿に全国のファンも多く、祭りの二晩は賑やかな夜店とともにあまたの観光客でごった返す。しかしこの祭り、実は昭和五十二年に商店街の発展を祈って始まった新しい祭り。といつても、全く新しいかというところではなく、百数十年続く「須留田八幡宮の宵宮」の祭りのスタイルを援用したものの。原型である宵宮も今に継がれ、二年前からは屏風の並ぶ通りの街灯・自動販売機などはすべて消灯、本来の絵金の姿を見つめ直す機会ともなっている。時代とともに発展する祭りとかつての姿を守り続ける祭り、一つの文化から見える二つの姿には、「継ぐとは何か?」という問いへの大きなヒントが隠されているのかもしれない。

動く、絵金の世界 土佐絵金歌舞伎



第14回 土佐絵金歌舞伎

7月15日[土]・16日[日]
JA倉庫内にて17時開演
「寿式三番叟」
「色彩間苺豆〜かさね」
「傾城阿波の鳴門〜どんどろ大師」
※ 会場入口にて解説入りパンフレットを500円にて販売!

「絵金に描かれた歌舞伎を演じる」というコンセプトのもと誕生したのが、平成の地芝居「土佐絵金歌舞伎」です。心底芝居好きのおばばの呼びかけに、その孫嫁と地元有志が奔走し、平成5年にその上演が実現しました。衣装も舞台もすべて手作りです。それから十三年。第十四回となる今年の演目は、「色彩間苺豆〜累」。絵金の芝居絵にも描かれている「累物」と呼ばれるジャンル。ともに同じ「累伝説をもとにしています。絵金の描いた「伊達」が累の姉を殺すのに対し、「色彩」では、累の母と密通した与右衛門がその夫つまり累の父を殺すと、設定は少し違いますが、見せ場満載のこの累の物語、地元の若い衆がいかに演じてくれますよ。ぜひ期待!